

ピア・メンター合宿に参加して

北村佳那子

ピア・メンター合宿では、名前のおり「ピア・メンター」をテーマにして、グループワークの中で、また授業の教師と生徒間の中でその存在がどのような役割を果たすのかを考えました。合宿1日目は、各グループで話し合ってまとめた意見を発表し合いました。グループごとに発表しあったことで、答えは1つではなくて色々な考え方があるということを知り、またその発表のしかたもそれぞれ工夫が施されていたので良い勉強になりました。

合宿2日目は、1日目に考えたことをもとに「自分たちの考える《いい授業》、その中でピア・メンターの働き」をテーマにした劇をグループごとに創作して発表をしました。この時、私のいたグループでは正反対の意見が出たりして劇を作るまでがかなり難航してしまい大変でしたが、最後はなんとか仕上がったので良かったです。他のグループの発表の中にはかなりレベルの高いものもあって感心しました。

今回の合宿で学んだこととして、ピア・メンターとはグループのリーダーシップをとる役割とバックアップさせる役割の両方を兼ね備え、その場に応じて発揮することができる存在であると分かりました。このどちらの役割であっても、ピア・メンターは「いい授業」の雰囲気づくりをしてくれます。

例えば周囲で授業に参加していないような人がいたときに、その人がやる気を起こせるように促すことはピア・メンターとしての役割を果たしています。また講義中分かりにくいことがあった時に、積極的に教師に質問していくことも周囲に良い刺激を与え、内容の理解も深まっていきます。

このように周囲をよく観察して、気遣いをしつつ全体の中心に立ったりバックアップしたりするピア・メンターがいることで、意見の交換も積極的に行われ、みんなが意欲的に授業に取り組めるようになります。自ら学ぶ姿勢を持てるようになるには、全体のバランスをとってくれるピア・メンターのような存在が必要不可欠なのだと思います。

しかし「いい授業」になるには生徒だけでなく教師の力も必要です。教師から生徒へと常に一方的で、生徒側がその授業に対して興味を持ってない、意欲的に取り組めない授業は良いとは言えず、やはり教師と生徒との間で、あるいは生徒どうしでの意見交換が積極的に行われ、生徒が興味をもって取り組める授業であることが大切だと感じます。

この合宿の内容は予想以上に奥が深く難しいものでしたが、初めて知り合った仲間達と共に一生懸命考え話し合い、そして発表しあったことで、多くのことを学びました。私もピア・メンターのような存在になりたいと感じたので、今後の人生での1つの目標にしていきたいと思いました。

(本学学生 1年生)